



2010年5月1～2日 スーパーGT選手権 GT500クラス 参加台数13台
サーキット 富士スピードウェイ

スーパーGTの第3戦が富士スピードウェイで行われました。HSV-010で富士を走るのが初めてで、空力パーツも富士仕様になり、その評価を行いながら公式練習を走りました。マシンのセッティングを変更しながら徐々にタイムを上げることが出来、マシンのフィーリングも良くなっていきました。今回の予選アタックを任されることになり、NEWタイヤでどのようなバランスになるかを考えながらセッティングしました。

予選・・・／7位

天候・・・晴れ

今回の予選はスーパーラップ方式でした。1回目の予選でスーパーラップに進出する8台が選ばれます。始めに、300クラスと混走で予選時間が始まりました。最初に年弘さんが基準タイムをクリアするためにコースインしました。すぐに基準タイムをクリアしたため、ピットに戻ってきました。ドライバー交代して残りの時間をNEWタイヤでアタックしました。マシンのバランスを確認し500クラスのみで待つまで待ちました。そして、10分間500クラスだけの時間が始まり、最初にスーパーラップで使う予定のタイヤでコースに入りタイヤの皮むきを行いました。すぐにピットに戻り、タイヤを履き替えコースに戻りました。タイヤを十分に温めると同時に、富士ではストレートが長いのでスリップストリームを使うように前を走る車との間隔を調整してアタックラップに入りました。しかし、1コーナーのブレーキングでバランスを崩してしまいタイムロスしてしまいました。残り時間があつたためもう1周アタックしました。1コーナーをクリアし、順調に走ることが出来、7番手タイムでスーパーラップ進出を決めました。

スーパーラップ／7位

天候・・・晴れ

予選で8位のマシンから1台ずつ1周のタイムアタックを行い決勝の順位が決まります。そして、スーパーラップで使用したタイヤでレースをスタートするルールでした。

スーパーラップは昨年の開幕戦以来2回目で、勉強してきた成果を出せるように集中しました。コースに入り、気温が下がってきていたので、マシンを左右に振りながらタイヤを温めました。そして、1周のタイムアタックに入っていました。マシンのバランスは予選よりも良かったので、攻めて走ることが出来ました。今回ハード系のタイヤを選択していた中では上々のタイムですが、タイムは7番手ということで、決勝グリッドが決まりました。

決勝・・・／5位

天候・・・晴れ

朝の公式練習で、決勝に向けたマシンバランスを確認しました。ガソリンを多く積んだ状態でも、バランスが悪くなることはなく、微調整をしながらセッションを終えました。

今回のレースは400キロを走り、ドライバー交代が2回義務付けでした。チームでは様々な作戦を検討し、対処出来るように作戦を立てていきました。今回自分は真ん中のステイントを担当しました。

88周のレースが始まり、1台がピットスタートになったため6番手でレースが進んでいきました。5番手のマシンと一定の間隔を保ったままレースが進んでいきました。28周目にポジションをひとつ上げ、他車のピットインもからみ32周目に4番手で年弘さんがピットに戻ってきました。ガソリン給油とタイヤを4本変えてピットアウトしました。

アウトラップで24号車に先行されてしまい、さらに自分よりも周回が多い8号車が後ろから来てしまい、進路を譲りました。逆にその8号車が24号車を抜いたのをうまく利用し、ダンロップコーナーで24号車をアウト側から抜くことに成功しました。そこから前のマシンに追いつこうとプッシュして走りました。ずっと見えなかったのですが、途中から同周回の8号車が見え始め、引き続きプッシュしました。徐々に追いついていき、前との差が4秒を切ったところに8号車が他車と接触。58周目に8号車の前に出

ることが出来ました。そこから、ドライバー交代までタイヤの摩耗状況をチームに報告しながら走り、6周目にピットに入りました。タイヤの状況が良かったのでタイヤを交換せず年弘さんがコースに戻っていきました。

年弘さんも順調に周回を重ねていき、HSV-010の中で最上位の5位でレースを終えました。

今回のレースでは予選アタックを任され、出来る限りのドライビングをすることが出来ました。しかし、予選の1周目でブレーキングミスがあったり、タイムを積めることがまだまだ出来ると思います。レースではうまくその時の状況を利用してオーバーテイク出来たと思います。

次回のセパンは昨年調子の良かったコースなので、さらにいい結果を目指し準備していきます。

次回のレース・・・6月月19、20日 セパンサーキット／マレーシア

塚越広大